

日刊 動労千葉

86. 9. 10
No. 2347

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

分割・民営化絶対阻止の旗を高く掲げ 動労千葉 三波ストを軸に全国総決起

14地本六二五名結集し、『国鉄労働者総集會』大成功

九月七日、東京・四谷公会堂において国労を中心とした職場活動家が全国に呼びかけた「九・七国鉄労働者全国交流集會」が開催され、闘う全ての国鉄労働者が今こそ結集しよう。○国鉄分割・民営化絶対反対、労使共同宣言絶対反対をかがげ闘おう。○動労革マル打倒、「ニセ国労」解体。○国労中央の屈服をのりこえ国労の防衛・強化・決起を立ちとろう。○分割・民営化絶対阻止へ！ ストライキを目指して頑張ろう！のローガンのもと全国十四地本から国鉄労働者を先頭に、公労協、公務員、民間の労働者、六二五名が結集、大成功をかちとり、九一十月の今秋決戦にうってでる決意をうち固めた。

対決することが団結をつくる

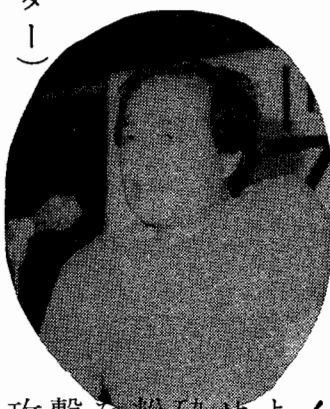
—全造船石川島分会・佐藤芳夫委員長—
十三時、二名の国労の仲間による司会で「国鉄法案上程を前にして決戦状況に突入した。動労千葉は、第十一回定期大会で分割・民営化阻止、十万人首切り粉碎へむけて第三波ストライキを軸にした闘う方針を決定した。国労においても中央民同の屈服をのりこえ闘いに決起しようとしており、本集會を契機に総反撃にうってでよう」と力強く開會を宣言した。

先ず、連帯の挨拶に立つた全造船石川島分会の佐藤芳夫委員長は「動労などの労使共同宣言は戦前の産業報国会の労使ストライキ絶滅宣言とウリふたつで現情勢は当時と酷似している。大変な時代だ。国労中央の後退は動労千葉のように当局と対決する視点がかけており、柔軟路線をとつても当局は許してはくれない。当局と対決することが国労の団結を保持する」と述べた。

つづいて、自治体、教組、全通、全金本山の労働者から連帯挨拶をうけ、最後にジェット闘争支援共闘會議・浅田光輝氏より「労働運動を階級的に再組織しなければならぬ。そのために、動労

千葉が先頭に立ち、動労千葉のもとに国労であるうと総結集し、この難局をのりこえてほしい」と訴えられた。

敵は 議る気など 全くない
—野田峯雄氏 (ルポライター)—



集會は、野田峯雄氏（ルポライター）の「国鉄分割・民営化の矛盾をあげよ」との講演に入った野田氏は「今日の権力の弾圧体制をみてこれが集會なのだと感じた」と前向きな発言、ルポライターとして国鉄改革のデタラメさ、ベテラン性を鋭くつく核心に入り、国鉄改革を強行する国鉄幹部の異常ともいえる感覚、水面下でうごめく新会社社長など噂、マスコミはなぜ国鉄問題をとりあげないのか、国鉄解体は何のためか、国鉄改革のデタラメ・凶暴性、動労の裏切りの犯罪性、真国労幹部の実態、合理化強行で切り捨てられる安全問題などについて話され、とくに「中曾根は三〇四議席におごりたかぶり、なめてかかっているもとの国鉄国会は形骸化の恐れがある。敵は議る姿勢などなく一歩譲れば二歩突っ込んでくる。国鉄労働者自ら起たなければ現状は変らない。悔しさを怒りに変え、職場から団結し闘いの力を積みあげることが重要だ」としめくくった。（以下つづく）



二期阻止、不法収用法弾劾、東峰十字路裁判闘争勝利
成田用水実力阻止、脱落派粉碎・一掃

9・14全国総決起集會

東峰十字路裁判の完全無罪かちとろう

主催 三里塚芝山連合空港反対同盟
日時 9月14日(日) 正午
会場 菱田・天神橋
集合 成田運転区 10時

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！